

牛ふん主体の堆肥による地域内の 畜産農家と耕種農家の連携

有限会社ファーマーズ・クラブ赤とんぼ

会社概要

～私たちファーマーズ・クラブ赤とんぼについて

- ▶ FC赤とんぼは、1995年8月に『地域農業と環境を守り、安全な食べ物を生産し供給する』というテーマに賛同した10名の農家と一緒に設立し、環境負荷の少ない農業を実践しています
- ▶ 設立以前から、地域の農家から田植えや稲刈りなどの作業を委託されることが多くありました。じいちゃん、ばあちゃんを田んぼから切り離さないためにも、若手農家が活躍できる共同利用の施設が、地域には必要と強く感じたことが、赤とんぼ設立の大きな理由となっています
- ▶ 事業内容

米事業（社員数 8名） 鶏卵事業（社員数 3名） 会員農家 35戸



国内肥料資源を活用した取組や 化学肥料低減の取組等の紹介/取組み計画概要

国内肥料資源の利用拡大に向けた連携計画

課題	・ファーマーズ・クラブ赤とんぼでは、肥料高騰下、地域の作物にあった利用しやすい堆肥の確保が困難となっており、また、構成員の分布も広域であることと、一部構成員の高齢化に伴う作業負担の軽減も求められている。
目指す姿	・畜産農家と耕種農家が参集し、地域の作物にあった国内資源由来の堆肥を創造し、堆肥供給の拠点としてストックヤードを使う圃場の近くに整備することにより、生産者の労力や経営負担の軽減を図る

原料供給事業者

事業者名	○高畠地区 ・(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ ・酪農家：K氏 ・酪農家：S氏 ・肉牛肥育経営：W氏 ○上山地区 ・酪農家：N氏
取組内容	・耕種農家を使いやすい良質な堆肥製造のため一時発酵処理 ・年間を通じてばらつきの少ない原材料供給のための分析検証
活用事業	国内資源由来肥料の流通保管施設等 国内資料資源利用拡大対策事業のうち国内肥料資源活用総合推進支援

肥料製造事業者

事業者名	(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ
取組内容	・ストックヤードを設置し、一時加工された肥料原料を、利用者の需要に応じて試作 ・製造された堆肥の適正な管理 ・利用者の希望に応じた散布・堆肥の施用マニュアル作成
活用事業	国内資源由来肥料の流通保管施設等 国内資料資源利用拡大対策事業のうち国内肥料資源活用総合推進支援

肥料利用者

事業者名	(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ 置賜地区飼料米生産利用協議会
取組内容	・土壌診断を実施し、堆肥の適正利用に対する検証と肥料事業者へのフィードバック ・消費者に向けて、国内肥料資源を活用した農産物のアピール
活用事業	国内資料資源利用拡大対策事業のうち国内肥料資源活用総合推進支援



設置箇所

- ▶ 赤とんぼの構成員は高畠/川西地域と上山地域に分かれており、限られた時間と労力の中で、堆肥散布についての作業に課題もあったことと、構成員の高齢化による負担軽減も求められていた
- ▶ このため、畜産農家が持ち込みやすく、且つ散布もしやすよう、2カ所に拠点を置くこととした

成果目標と目標設定の考え方

- ▶ 事業を継続していくため、採算性を計算し、設定
- ▶ 地域の畜産農家と耕種農家と共にスタートする事業であるため良質な堆肥を作り、選んでもらい、良い作物を育てられる好循環を目指したい
- ▶ そのためにも1000 t の堆肥散布は、売上目標でもある
- ▶ 使い続けられる価格の堆肥、高品質の選ばれる堆肥を作り続けることがポイントとなる

目標	目標年度	目標値	増加量
国内資源由来肥料の取扱数量の増加	2026年	1,000 t	1,000 t

補助事業で製造する堆肥の普及に向けた取り組み

- ▶ 畜産農家訪問/現地調査





補助事業で製造する堆肥の普及に向けた取り組み

土づくり勉強会/現地指導



補助事業で製造する堆肥の普及に向けた取り組み

土づくり勉強会/現地指導

補助事業実施計画書作成において 留意した点

▶ 耕種農家・畜産農家の課題を知ること

- 耕種農家は、数年前からの肥料高騰に伴い、生産コストが上昇し、所得が上がりにくい構造になっている
- コストを下げるために堆肥を活用しようと思っても、作物にあった堆肥や軽く使いやすい堆肥の確保が難しい
- 畜産農家は、日々排出されるふんの処理や出来上がった堆肥の販売などが課題
- 圃場まで堆肥の運搬距離が長く、コストがかさむ

▶ それぞれの課題解決にむけて

- 堆肥の作り方や土壌の勉強会の開催
- 耕種農家は、土壌分析で今の土の状態を知ること。畜産農家は、堆肥分析で今の堆肥の状態を知ること
- 耕種農家は、実際に堆肥を使用して、生育状況や収穫量などを記録すること
- 使用した堆肥の感想を畜産農家へ伝えること
- できるだけ動線の短い堆肥散布を検討していく

これから目指したい姿

- ▶ 堆肥散布を予定している約84ヘクタールでの圃場での栽培記録と収穫量や食味などの記録を蓄積していきたい
- ▶ 蓄積した記録をもとに、好成績を収められれば、堆肥の利用面積はおのずと増えてくると思う。
- ▶ SNSを使って、稲の生育状況などを伝えていくことも必要と思う



ご静聴ありがとうございました